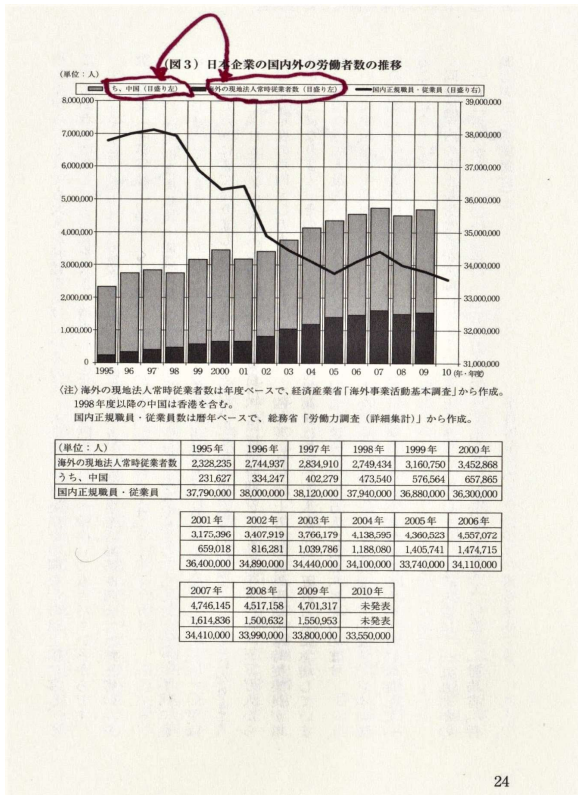


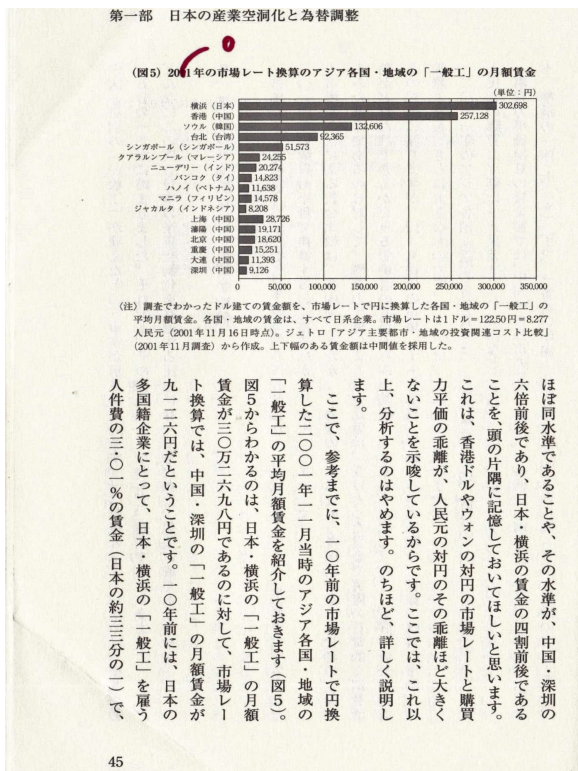
『円高と円安の経済学』の正誤表

2020年4月8日作成

- ① P 19 の「はじめに」の文中、うしろから3行目の「利益史上主義」は、「利益至上主義」の誤りでした。訂正します。
- ② P 24 の図で、タイトルの下にある棒グラフの注記の「うち、中国（目盛り左）」と「海外の現地法人常時従業者数（目盛り左）」を入れ替えます。（以下の赤字入り図表を参照ください）



- ③ P 45 のタイトルで、「2011年の市場レート換算…」は、「2001年の市場レート換算…」に訂正します。（以下の赤字入り図表を参照ください）

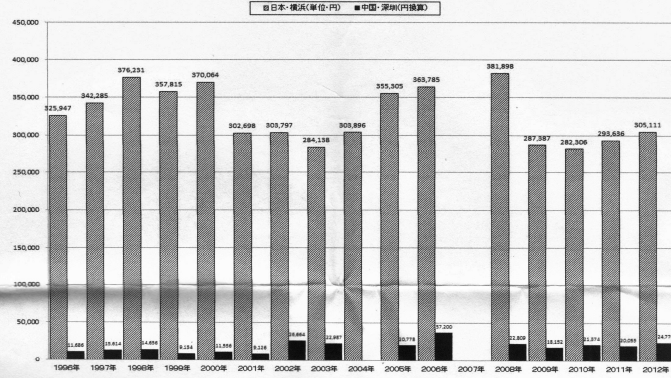


- ④ P 4 9 の図 7 の棒グラフ下の西暦年が一部、ずれて表記されていました。図そのものを、2012年の棒グラフを新たに追加した図に差し替えて訂正します。

為替レート換算による日中の異常な賃金格差

新著に掲載した図表「日本・横浜と中国・深圳（日系進出企業）の『一般工』の市場レート換算での平均月額賃金の推移」（P 4 9）を、データを最新のものに更新して紹介します。解説は、新著をごらんください。

日本・横浜と中国・深圳（日系進出企業）の「一般工」の市場レート換算での平均月額賃金の推移
（単位：円）



（注）シフト調査「アジア主要都市・地域の投資関連コスト比較」（2011年から「アジア・オセアニア主要都市/地域の投資関連コスト比較」と題名を変更）から作成。
賃金額は、深圳と横浜の現地通貨建ての金額を優先的に使用したが、ドル換算による賃金額しかない示されていない年は、それを使用して現地通貨建て賃金を算出。
上下軸のある賃金額は中間値を採用した。2004年の中国・深圳の賃金額のデータがなく、2007年は調査そのものがなかった。
各年の中国・深圳の賃金は、各年調査時の市場レートで円に換算したものである。

- ⑤ P 1 3 3 の文中、初めから 9 行目の「一億をただ買いたいわけではなく」は「一億をただ買いたいというだけでなく」の誤りで、「いう」という文字が抜けていました。訂正します。
- ⑥ P 1 3 4 の文中、初めから 9 行目から 10 行目の「諸君に説明するであるが」は「諸君に説明するであろうが」の誤りでした。訂正します。
- ⑦ P 1 4 1 の文中、うしろから 4 行目から 3 行目の「円安（損失の危険）」は「円安リスク（損失の危険）」の誤りでした。訂正します。
- ⑧ P 1 4 4 の文中、初めから 2 行目の「人民元を買おう提案する」は「人民元を買おうと提案する」の誤りで、「と」が抜けていました。訂正します。
- ⑨ P 1 7 8 の図 2 の折れ線グラフの下に、本来あるはずの西暦年が全部欠落していました。以下の図に差し替えます。

② (図 2) 「松方デフレ」前後の物価の動き

（『日本銀行百年史』の『資料編』から）

各指数（1934～1936年平均＝1、
消費者物価指数は1878年まではデータなし）

